

「デジタルヘルスケア秋田モデル創出事業」 成果報告会・プレワークショップセミナー

当センターでは、今後市場が拡大するヘルスケア産業への県内企業の参入を目指して「デジタルヘルスケア秋田モデル創出事業」を令和3年度に実施し、その成果報告会・プレワークショップセミナーを令和4年2月16日にオンラインにて開催した。

第1部では、関係企業と関連団体に向けて、センターからヘルスケア一体化パッケージの検証結果を、実証企業3社が新たに構築したビジネスモデルを報告。第2部では、秋田県がヘルスケア関連事業の令和4年度の取組を紹介したほか、首都圏のヘルスケア関連のスタートアップ企業5社から、先進事例の紹介を交え、県内企業との連携体制強化を見据えた提案がなされた。第3部では、県内のライフサイエンス関連企業3社が、事業紹介を兼ねたワークショップを開催した。

第1部

株式会社ゼロニウム

センサーによるボディトラッキングを活用した 新しい「運動デジタルアミューズメントプログラム」の普及

アミューズメント性を兼ね備えた運動支援システムにより運動意欲低下という問題を解決する。そのため、自社のプログラム企画開発力やブラウザリット秋田様の専門性を使用して運動効果の見える化による効果的で楽しい運動体験を創出し、またコロナ禍における「運動の必要性」「社会活動への参加」「運動習慣の定着」「屋内で行える体力増進のニーズ」という4つの課題を解消するため、販売・普及に向けた準備を行い今年6月の販売を目指す。



株式会社アルファシステム

健幸ポイントアプリを活用した市民いきいき増進モデル

地域住民と自治体双方の負担軽減のため紙媒体で行っていた健康ポイントアプリのアプリ化を提案。秋田県のように高齢者などスマホに馴染みのない地域住民にも愛されるアプリを目指し、スマホを介して地域と繋がり合い、世代の隔たりなくデジタル技術を日常に取り入れられる構想を掲げた。



株式会社サノ

SNSを活用したDwC(ダイレクトウィズコンシューマー)の実践

機能性表示食品に登録された自社サプリメントの「てくケア」の拡販とSNSを活用したお客様との情報交換により距離を縮めていくことで今後の商品開発ニーズの発掘をしていく。SNSで直接意見交換を行うことでお客様の意見を製品へ反映し、ファン作りにつなげていく地域密着型のビジネスモデルを展開し、サプリメントだけでなく、様々なお客様が直接商品開発に参加することで心理的満足感と購買意欲を高めていきたい。



第2部

全国のヘルスケア関連企業からの事業紹介・秋田への提案

秋田県からはヘルスケア産業に参入する際の課題とその解決に向けた令和4年度の取組について紹介を行った。事業の収益化、科学的根拠、企業間連携の大きく分けて3つの課題に対して、協業によるヘルスケアビジネス創出に向けたワークショップの開催やワークショップに参加した県内企業に対する実証等の支援、自社製品等の開発支援、最新の動向を提供するセミナーの開催の4つの取組をしていくと説明。次に首都圏を中心とした先進事例紹介とスタートアップ企業による秋田への事業提案が行われ、(株)タニタヘルスリンク、エーテラボ(株)、(株)biomy、(株)Zene、(株)フォルテ、リアルワールドゲームス(株)のそれぞれの企業が提案を行った。

第3部

株式会社秋田テクノデザイン

「ワイヤレス排泄感知システム“しらせるぞう”の開発」

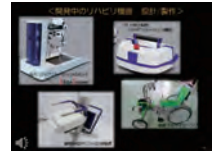
当社では電子機器の受託設計、自社製品の開発・販売を事業としている。ワイヤレス排泄感知システム「しらせるぞう」の開発から販売までを行うにあたり、開発の段階では排泄を感知するセンサーからの電気信号をどのように引き出すかを検証するため何十種類もセンサーを作った。失敗を繰り返しながら、3年の月日をかけて販売までようやく辿り着いた。販売開始後は介護以外の分野でも活用できるのではないかと声もあり、今回の排泄のセンサーの開発をきっかけに今後は他の分野への応用もしていきたい。



秋田未来株式会社

「県内の大学と共同事業を行っているリハビリ機器」について

当社は電子部品の製造ラインなどの機械設計を主な事業としている。今回参加したシーズ・ニーズマッチング交流会には、秋田大学医学部整形外科と共同で開発した「動的座位バランス装置」を展示した。「装置に関わる当事者の方々」と直接意見交換ができる貴重な場だと考えている。」と六平社長。今回の発表では「動的座位バランス装置」のほかに、「歩行リハビリテーションロボット」「卓上型上肘用リハビリテーション機器」「車椅子用サイクリング」の紹介がされた。



東商事株式会社

「秋田県産えごま油の美と健康への挑戦」

地域貢献事業への取組の一環としてえごま商品の開発をしている。えごまに含まれる「α-リノレン酸」で地域の人々を健康にしたい、古くから栽培されているえごまを通じて地域コミュニティを活性化したいという思いからヘルスケア産業への挑戦を決めた。えごま油を製造する際に必ず出る副産物を利用して商品を作ることはSDGsの観点からも望ましいこと。今後も皆様からのご協力をいただきながらお役に立てるように事業を展開したい。

